

令和2年度第2回文化芸術に関する意見交換会意見一覧

「さいたま市文化芸術都市創造計画について（報告）」への意見

項番	大項目	中項目		小項目		ページ	意見
1	第3章	2	基本施策の展開	施策1	施策展開 1-2	28	「さいたま国際芸術祭2020」は、市民に情報が届いておらず、市民の関心が低いように感じられた。そのため、イベント等の広報活動を含めた情報発信を行う専門部署の設置が必要である。
2	第3章	2	基本施策の展開	施策5	施策展開 5-2	38	漫画会館の老朽化が著しいため、全面改装を施し、アニメーションを含めた漫画文化の振興を図るべきである。
3	第3章	2	基本施策の展開	施策6	施策展開 6-2	43	「さいたま国際芸術祭2020」等のイベントに出品された作品の一部を、まちなかアートとして、公園・道路・氷川神社の参道・広場・駅前の広場・街角・水辺等に展示することで、市民の目に日常的に触れる機会を提供すべきである。
4	第3章	2	基本施策の展開	施策6	施策展開 6-2	43	<p>（公財）埼玉県芸術文化振興財団では、多彩で質の高い舞台芸術作品を創造し、市民をはじめ、多くの方に提供できるよう努めている。また、さいたま芸術劇場や埼玉会館のホール等の施設利用を通して、多くの方に文化芸術の活動の場を提供している。そのほか、さいたま芸術劇場では中央区役所や地域団体の方等、埼玉会館では地域の商店や住民の方等と連携し、イベント等を開催している。</p> <p>今後は、こうした活動を通じた施策の展開や、重点プロジェクトに寄与するとともに、さいたま市や地域住民の方々との連携を更に強め、文化芸術を通じて地域に貢献できるように努めていく必要がある。</p>
				施策7	施策展開 7-2	46	
				施策8	施策展開 8-1	47	
5	その他	—	—	—	—	—	<p>本計画は、旧4市が合併したさいたま市に、旧来の自治体の文化行政を引き継ぎ、同時に新しい試みを実施してきたこれまでの経緯を統合的に発展させる計画と理解しており、その観点から見ると、良い計画ができたと感じられる。</p> <p>この計画に基づく施策を展開していくことで、さいたま市が「〇〇アート」の中心地として、社会から見られるように発展していくことが求められている。</p>

項番	大項目	中項目		小項目		ページ	意見
6	その他	—	—	—	—	—	<p>小学校・中学校・高等学校の新しい指導要領では、「総合的学習の時間」に加えて「探究学習」を志向する実践活動が求められている。特に、高等学校では、各教科において「探究」の機会を設けると同時に、「総合的な探究の時間」を設定する事が決まっている。文化芸術活動はその探究の対象として用いる意義は、本計画を実践する良い機会であると考えられる。</p> <p>今後、計画を実践する中で、学校教育が社会生活と連携する機会として「探究の課題」を多く作り出し、さいたま市に住み教育を受ける事が、文化的で芸術的な生活を創り出す機会になるように施策を展開する事を望んでいる。</p>
7	その他	—	—	—	—	—	<p>今後、国際芸術祭はさいたまスーパーアリーナ等をメイン会場とし、その周辺エリアをまちなかアートに位置付けて、新しい街づくりの一環として取り組んでほしい。また、長期的展望に立って継続的に事業が続けられるように、検討を進めていくべきである。</p>
8	その他	—	—	—	—	—	<p>「さいたま国際芸術祭2020」は、「さいたまトリエンナーレ2016」の開催時と違って、コロナ禍の中、あらゆる面で計画変更が余儀なくされた。そんな中、告知・宣伝・内容の難解さについて、不満を持っている市民が多いように感じられる。おそらく「さいたま市文化芸術都市創造計画」についても、概要版を見ただけで、活字主体の表現に難解であると感じてしまう市民が多いのではないかと感じる。紙媒体の資料とともに、8つの基本施策だけでも映像的な資料として作成すると、もっとイメージしやすいのではないかと感じる。</p> <p>行政が作成する資料は、パブリック・コメントに対する見解も含めて、一般市民にとっては難解で、近寄りがたいものだと想像できる。そのため、行政側も市民に理解・賛同を得るには、もっと工夫を凝らしたアプローチを試みるべきだと感じている。</p>

項番	大項目	中項目		小項目		ページ	意見
9	その他	-	-	-	-	-	「さいたま国際芸術祭2020」の展示内容は良かったと感じた。また、会場の使い方も工夫されていて楽しめた。しかし、来場者が少なかったと感じたので、もっと広報に力を入れてほしかった。SNSの活用は増えていると思うが、世の中にもSNSがあふれているので、もっと大きなインパクトを残してほしい。
10	その他	-	-	-	-	-	漫画会館を拠点とした漫画文化のPRが足りないと感じている。同じ“漫画”でも、現代の子ども達が考える“マンガ”と、北沢楽天ゆかりの地という地域特性を活かした“漫画”文化との認識には、差があるように思われる。PR方法や企画内容を工夫すること、市民等のアイデアを積極的に採用することで、より多く集客できるはずである。
11	その他	-	-	-	-	-	コロナ禍等のアクシデントが発生した際のリスクマネジメントをしっかり行い、緊急時にも臨機応変に対応できるような施策を展開するべき。

委員の皆様からいただいた御意見を参考として、計画に基づく各施策を推進する中で、具体的な取組内容を検討してまいります。